

第5回四日市市行財政改革推進会議概要

日 時:平成16年1月19日(月) 午後3時30分～5時

場 所:市役所7階部長会議室

出席者:委員 ----- 丸山 稲沢 大矢知 鹿嶋 加藤 藤田 (敬称略)

事務局 ----- 山口財政部次長 武内財政経営課長 前田補佐 算

1. 開会

2. 審議事項

(1)平成15年度取り組みのまとめ

(2)平成16年度以降会議の進め方について

(事務局)

資料:「行財政改革推進会議最終レポート案」

「平成15年度四日市市行財政改革推進会議開催経過」

・取り組みのまとめとしては、どこまでできていて、何が残っているのか或いは何が問題か、ということ整理しておく必要があるのでは、会議として最終レポートをまとめていただきたいがどうか。提言内容と改革の成果については、事務局である程度事前にとりまとめできると思うので、効率的に進めていただけたらと思う。

・また、本市では行政経営戦略プランを策定しているところであり、まさに始動しようとしているので、それも盛り込んで新しい方向付けをしてもらえるとありがたい。

・次年度以降については、現在市では行政経営戦略プランを策定し、業務棚卸表をもとに市の政策を9つの基本目的、23の上位目的にまとめているところである。次年度以降は、目標をもった政策のまとめりに、この会議から市民に近い或いは専門的なご意見をいただきながら、進めていけないだろうか考えている。

・この会議は今年度末をもって終了するけれども、委員の皆様方にはご都合のつく限り、また来年度以降も引き続きよろしくお願ひしたい。

(1)平成15年度取り組みのまとめについて

(丸山会長)

・レポート作成をということだが、事務局の示した案に対して委員の意見を。

(稲沢委員)

・13年度から15年度に活動してきた内容を総括すべき、となるとこの書き方でよいと思う。

・『新たな行政経営戦略の始動に向けて』(最終レポート案の見出し)だが、この会議に何を担ってもらいたいのか、どの部分に意見をもらいたいのか、明らかにしてもらった方がよい。

(事務局)

・一度事務局で整理して、後日お示しさせていただきたい。

(丸山会長)

・最終レポート案の『改革の評価と意見』については、我々がしっかり書き込むとして、『提言内容』と『改革の成果』については事務局をお願いしてよいか。

(各委員) 了承

(丸山会長)

・では、各委員の役割を分担してしましょう。(敬称略。名前の前に を付した委員がとりまとめ責任者ということをお願いします)

「四日市市行財政改革の総括と展望

～行財政改革推進会議の提言に対する改革の成果と評価～」

1 はじめに **丸山**

2 提言に対する改革の成果と評価

- (1) 「地区市民センターの見直し」について **丸山、藤田**
- (2) 「希望の家・寿楽園の運営の見直し」について **岩崎、加藤、大矢知**
- (3) 「幼稚園・保育園の見直し」について **稲沢、伊藤**
- (4) 「財政の健全化と安定した財政基盤の確立について」 **鹿嶋、加藤、稲沢**
- (5) 「IT(情報技術)の活用による行政の効率化と情報提供について」

大矢知、岩崎

3 新たな行政経営戦略の始動に向けて **丸山、全委員**

・3 については、一度事務局で整理したものを (丸山会長が)コメント、文章化して、各委員の了解を得る形としたい。

公共施設のあり方について、は(4)の中に含める。

(事務局)

・『提言内容』と『改革の成果』は、整理ができ次第、担当の委員さんに該当部分を送らせていただく。丸山会長には全部を送ります。

・担当の委員さんで連絡を取り合って3 / 10までに事務局にご提出いただきたい。

(丸山会長)

・テーマによっては担当部署ともう一度話をすべきものもある、事務局を通じてセットしてもらいたい。

・委員同士の調整も事務局を通してもらってもよい。

(事務局)

・調整させていただくので連絡いただきたい。

(2)平成16年度以降会議の進め方について

(丸山会長)

・次年度以降だが、今までの行財政改革推進会議とは性格が変わってくることになる。いわゆる第三者評価機関という形になるのか？ 名称はどうか。

(稲沢委員)

- ・今私が携わっている外部評価委員会の名称はそれぞれ、行政評価委員会(名古屋市) / 行政評価専門委員会(芦屋市) / 施策評価委員会(尼崎市)。
- ・例えば名古屋市の例で言えば、1800枚の事務事業評価を10人で4グループに分けて、個別ヒアリングを100時間、共通のヒアリングを同じくらい行う。拘束時間としてもかなりのボリュームがあるし、また、担当部局側とも「対峙」するような場面もある。名称に『評価』をかぶせるとそこまでの重さでイメージされることになる。
- ・あり方として違う方向を考えているなら、そのイメージにあった名前ややり方があると思われる。

(丸山会長)

- ・評価する以上は公表するのだろうし、部局にヒアリングしたり意見交換したりも必要になってくるかと。そこまでやるかどうか。メンバー構成も考慮の必要があるかもしれないし。

(事務局)

- ・まだ考えを整理できていないが、個々の事業、或いは相当の時間をお願いして、ということも考えていない。
- ・各部局が業棚表を使って自己評価をきっちりやる、という姿を目指している。また、基本とする行政経営戦略プランの中の推進計画も、内容は主要施策でルーチンワークは入っていない。
- ・各部局が行う事後評価を、議会に報告する前に、市民の視点あるいは専門的な視点から表現・加筆などをする役割を担っていただけないか、というのが現段階での思いだが。

(丸山会長)

- ・我々もお引き受けする以上は成果のあるところでやりたいし、もし欠員がでたら目的に合った人を人選しなければいけないし、もう少し具体的な案をお示しいただきたい。

(稲沢委員)

- ・なぜ外部の目が必要か？その目的を明らかにしておくといいと思う。
- ・先に挙げた都市の例なら、財政再建団体転落寸前で、外部の目から見た事業の優先度のチェック或いは不要不急の事業かというチェックが必要だから。四日市市はどうか。
- ・「客観性の付与」という点で言えば、外部の目を入れれば客観的な評価ができたと言えるかというところではない。評価の基軸がないまま行くと、外部がやっても主観的なものになってしまう。“自己評価をきっちりやる”という流れに水をさすことになってしまうことにも注意を。

(事務局)

- ・一度議論して整理したい。次回にお示しさせていただきたい。

3 次回会議について

平成16年3月23日午前10:00～ (予定)

4 閉会